

# ホッケーの歴史と発展

## The history and development of hockey

1K04A186-0

波多野 大祐

指導教員

主査 加藤清忠先生

副査 関一誠先生

### 序章 はじめに

私はホッケー競技の歴史と発展について研究した。これまで 7 年間ホッケーに関わってきて、ホッケーの技術的なところや戦術面に関しては理解しているにもかかわらず、ホッケーがどのように誕生して、現在のような形へと発展してきたのかを知らなかったからである。

### 第一章 ホッケーとは

ホッケーはサッカーと非常によく似たゲームであるが、サッカーとの大きな違いは、ゴール前にサークルと呼ばれるシューティングゾーンがあり、その中からシュートされたボールが入れば得点となる。特にホッケーは、スティックを使った高度な技術やめまぐるしい攻守が入れ替わる試合展開の速さが特徴となっている。

### 第二章 ホッケーの起源

ホッケーの歴史は古代文明さかのぼることができる。ボールとスティックを使う競技として最も古いスポーツなのである。歴史上の記録では 4,000 年前のエジプトや BC1,000 年前のエチオピアで未発達なゲームが行なわれていたことがわかっている。太古のアメリカにおいても、コロンブスによる新大陸が発見される数世紀前から行なわれていたようである。アジアにおいても、ホッケーに似たゲームを行なっていたようである。ホッケー起源の正確な場所や年代は未だ知られていない。しかし、研究者たちは仮説を立ててホッケーの起源を求め探求しているのである。

### 第三章 近代ホッケー

近代ホッケーの起源は、他の多くのスポーツと同様にイギリスにある。近代ホッケーは英国によって学校体育として発展したのである。ホッケーはケンブリッジやオックスフォードなどの大学やロンドンのクラブなどへ広まっていった。そして、普及と共に徐々にルールも成文化され、統一されたのである。1924 年には国際ホッケー連盟が設立され、これによりヨーロッパのホッケーが他の大陸に普及されていった。

### 第四章 日本ホッケーの歴史

日本のホッケーの始まりは、1906 年、東京飯倉の聖アンドリュース教会の牧師として来日したアイルランド人、ウィリアム・T・グレーが慶應義塾に教えた日をもって日本ホッケーの始まりとしている。1932 年は日本のホッケー界にとって記念すべき年になった。ロサンゼルス・オリンピックへ団体競技として初めての

参加をしている。

### 第五章 競技規則とルールの変遷

ホッケーはその長い歴史の中で競技フィールドに関する改正やオフサイドの廃止などその姿を大きく変化させている。ホッケーはスティックなどの道具を使うことから、危険な行為を防止するために危険防止対策の強化が最優先されて改正されてきている。

### 第六章 人工芝フィールドの出現と普及

以前は国際競技大会などすべての試合が天然芝のフィールドで行なわれていたが、人工芝フィールドの出現によって人工芝で試合が行なわれるようになってきた。ホッケーの歴史において初めての人工芝フィールドは昭和 51 年のモントリオール・オリンピックであった。人工芝のなかった日本でも昭和 56 年に初めての人工芝専用ホッケー場が法政大学多摩キャンパス内に完成した。

### 第七章 日本ホッケーの界のこれから

今後、日本ホッケー界は世界のトップレベルの国々と競っていくために、世界を狙える選手の育成をしていかなければならないである。オリンピックやワールドカップなどの国際大会で上位に入る国では、強化システムとして、ジュニア期からトップレベルに至るまで、一貫した指導理念や指導方法に基づいて競技者を育成・強化する一貫指導体制が用いられている。そのような強豪国と競っていくためには、少年スポーツの育成や一貫指導システムを構築し、オリンピックでメダルを狙えるチームの育成を行なう必要がある。日本ホッケー協会でも実施を目指している。

### 終章 まとめ

このようにホッケーの歴史について研究し、どのようにしてホッケーが誕生、発展してきたのかを知ることができた。今後、日本のホッケーがいま以上に発展していくには競技人口の少なさや認知度の低さ、人工芝フィールドの普及によるチーム間の競技力の格差など、さまざまな課題が存在している。これだけがホッケー界の課題すべてではないが、これらをクリアしていくことでさらにホッケーは発展していくのではないだろうか。

ホッケーの歴史を調べることで、いままで分からなかったことを明らかにすることができた。ホッケーが多くの人々の努力があり、現在のホッケーの形になったということを知ることができた。

以上が私の卒業研究である。